

# 会報 峠 とうげ

河井継之助記念館  
友の会会報

第6号

2009.12

編集・発行  
河井継之助記念館  
新潟県長岡市長町1丁目1675-1  
〒940-0053  
Tel.0258-30-1525  
Fax.0258-30-1526

頒布価:50円(送料別)

## ファブルブランド

継之助にガトリング砲を売った男

河井継之助記念館友の会副会長 内山 弘



ガトリング砲の模型の前に語る内山さん

ゼームス・ファブルブランドは天保十二(一八四二)年九月二十三日、スイス国ロツクル市の鑑金吏の家に生れた。ファブル家は当市の古くからの名家で、

ファブルブランドは何不自由なく育った。長じてニューシヤタルの工業専門学校に進み、電気工学を専攻し、更にジュネーブ大学で医学を聴講した。

ファブルは小さい頃から日本に興味を持っていた。文久二(一八六二)年、スイス政府が日本と修好条約を結ぶために使節団を派遣することを耳にし、その随員に志願した。ファブルの有能さや若さに加え、カルピニエ(スイス射撃隊)下士官という資格は彼の希望をかなえるに余りあった。ファブルは射撃の名手だったのである。

ファブルは小さい頃から日本に興味を持っていた。文久二(一八六二)年、スイス政府が日本と修好条約を結ぶために使節団を派遣することを耳にし、その随員に志願した。ファブルの有能さや若さに加え、カルピニエ(スイス射撃隊)下士官という資格は彼の希望をかなえるに余りあった。ファブルは射撃の名手だったのである。

ファブルは小さい頃から日本に興味を持っていた。文久二(一八六二)年、スイス政府が日本と修好条約を結ぶために使節団を派遣することを耳にし、その随員に志願した。ファブルの有能さや若さに加え、カルピニエ(スイス射撃隊)下士官という資格は彼の希望をかなえるに余りあった。ファブルは射撃の名手だったのである。

## 峠抄

とうげしやう ⑤

澄み渡った青空が広がる中、会津を訪ねる旅に出た。途中、バス上空をトキが旋回し、トキ色に輝く翼に感動を覚えた。こうして年に二回の友の会交流研修旅行が始まった。歴史ある会津若松では、この日白虎隊慰霊祭が行われ、会津高校の生徒による剣舞が披露された。白虎隊の悲劇は広く世に知られている。飯盛山には、隊士達が通った戸ノ口堰洞門が現存している。少年隊士を導いたものは、幼い頃からの教育や会津藩風などである。命を懸けて藩主に忠誠を誓い、武士としての最期を迎えたことは、長岡藩にもいえるのではなからうか。

飯寺にある長岡藩士殉節の地では、長岡藩士殉節顕彰会齋藤玄良会長はじめ、会員の方々に迎えていただき、線香の用意までしていただいた。毎年九月九日には本光寺において、山本帯刀を含む四十四名と共に河井継之助の御霊も弔われている。遠く長岡の地から離れて亡くなった戦没者に、会津の人々は長い歳月を経た今日も、いたわりと慈愛の心を持ち続けている。(西川)

### 内山 弘プロフィール

(ふちやま ひろし)

昭和12年(1937)長岡市生まれ。長岡歯車資料館館長、長岡郷土史研究会顧問、新潟産業考古学会幹事。長岡ガトリング砲研究会員として、河井継之助記念館所蔵のガトリング砲復元に協力した。著書に「戊辰戦争とガトリング砲」などがある。

# 『峠』の越後長岡を歩く

④ 連載

司馬遼太郎の『峠』に描かれている「越後長岡」の風景を現在に訪ねるシリーズ。今回は越後を象徴する大河、信濃川の長岡地域を歩いてみました。

●「峠」上巻、新潮文庫2ページより  
「一体、どこへ参られるのでございませう」  
「信濃川をちよつとのぼつたところだ」

その川は、この越後長岡の郊外を流れているから、いくら世間せまいおすがでも知っている。その上流だという。

「世間せまい」おすがさんでも知っていた信濃川。現在でも、長岡市民はもちろん、全国的にも、日本一長い川として、その名を知る人は多いことでしょう。この川は、源のある長野県では千曲川、新潟県に入ると信濃川と呼ばれ、越後平野を貫き、日本海に流れ出ています。

江戸時代、長岡郊外を流れる中流は、いくつかの中洲を挟んで川幅が広く、橋は無く、長岡城を守る天然の要害としての役割を果たしていました。

また、自動車や鉄道が発達していない時代には、信濃川の舟運が重要な輸送手段であり、年貢米のほか数々の物資や人が上流、下流

から運ばれて来ました。それらの貨客は必ず長岡で積替えることになっており、長岡の一部の商人たちが特権を持って、長い間利益を独占していました。慶応三（一八六七）年継之助はこの特権を廃止し、自由な通船ができるようにしています。

川の水は田畑を潤し、川魚漁では鮭や鱒、鮎などが獲れ、人々は信濃川から様々な恩恵を受けていましたが、一方では、度重なる洪水による水害と闘い続けなければなりません。長岡では城内に浸水することもあったため、藩は寛延（一七四八）元年に「左近の大土手」と呼ばれる堤防を築いています。

現在の信濃川は、江戸時代に比べると川幅は狭くなりましたが、全体の流域面積は、利根川、石狩川に次いで全国第三位、幹川流路延長は367kmで全国第一位、年間流出量も全国第一位となっています。その豊富な水は、生活用水や農業用水だけでなく、水力発電や工業用水にも利用されています。

治水事業としては、明治以降、本格的な分水路工事や護岸堤防の築造、ダム建設などが進められていきました。河川敷も整備され、農地や運動場、公園緑地として活用されています。

また、江戸時代には無かった橋も、長岡地域には明治から昭和にかけて、長生橋、蔵王橋、長岡大橋、大手大橋が架設され、多くの人々が川の東西を行き来できるようになりました。

昔も今も、越後の人々の暮らしと密接に関係している、母なる川・信濃川。小説『峠』の中では、越後の場面で冒頭から幾度となく登場しますが、物語終盤では激烈な北越戊辰戦争における重要な舞台として描かれていくことになります。



現在の長生橋は昭和12年に架け替えられたもの。13の山型が連なる形状が美しいゲルバー式鋼構橋。



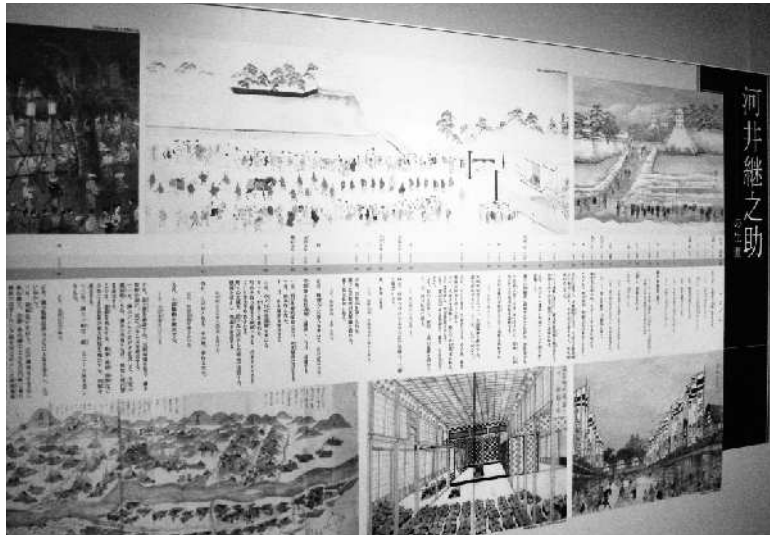
川沿いには、長岡藩家老の娘である杉本鍼子の著書『武士の娘』の碑など、信濃川にまつわる碑が数多く見られる。

参考文献  
「ふるさと長岡のあゆみ」(長岡市)  
「長岡歴史事典」(長岡市)  
「しなのがわ」(信濃川河川事務所)  
「信濃川水紀行」  
(建設省 信濃川下流工事事務所)

長生橋の上から見た信濃川。河川敷には自然が多くこのさわれている。両岸の堤防は、ジョギングや散歩のコースとなっており、夏には長岡大花火大会の会場としても利用される。



## 河井継之助の生涯その一 ● パネル紹介



河井継之助が生きた激動の時代を年表として表している。そのまわりに、長岡藩時代の年中行事などの絵が六枚散りばめられており、季節感漂う風景や習俗から当時の様子を偲ぶことができる。今回はそのうちの三枚について説明する。

### 一月「元正月登城之図」

水島爾保布画。明治十七（一八八四）年生まれ。絵に「模」とあ

るが、小川当知（旧長岡藩士・生没年不明）が『懐旧歳記』に描いた絵を後年、爾保布が模したものである。

この絵は藩主に年賀のお祝いを申し述べるため、藩士がそろって元旦の朝に登城する様子が描かれている。服装・はきもの・子供の者などは身分によって相違しているのがわかる。中央遙かに見えるのは御三階、右方の大きい

のは二の丸の櫓、左の二階櫓は時刻を知らせる御太鼓櫓である。この絵はJR長岡駅地下道入り口に大きな陶板画に仕立てられ飾ってある。長岡が城下町であったことを今に伝える貴重な一枚である。

### 五月「端午節句市中幟」

水島爾保布画。模。江戸時代は五月一日から六日まで藩士が騎馬で家中を駆け

回る行事があった。多くの騎馬武者が見えるのは、その乗り回しの様子である。長岡藩は、武士が町人と一緒にたてた子どもたちの健やかな成長を祈願したといわれている。節句にたてる幟には、大幅木綿に騎馬武者や猛虎などが描かれている。乗り回しを見るために多くの人が通りに集まったり、二階の窓から顔を出したりして賑やかな様子である。

### 十二月「歳暮御祝儀諸士一列ニテ拜謁之図」

小川当知画。年末の十二月二十五日に家臣は正装して登城し、本丸御殿で藩主に拜謁する御用納めの式が行われた。その様子を表現している。藩主が座っている御上段の間の白と青紫の市松模様が目を引き、金箔や、きらびやかな絵を使った障壁画でないところが興味深い。また、市松模様は、修繕する時その部分だけを直せるといった経済的な利点もあったといわれる。長岡藩の質樸剛健の藩風が、本丸御殿にもみられたのである。

ちなみに、平成二十三年秋に長岡駅近くに誕生するシティホール（仮称）には、偶然にも市松模様を取り入れられている。（神保）

参考文献

「長岡城」を歩く（青柳孝司著）  
「長岡市史別編文化財」（長岡市）

## ● 松樹植樹報告

松樹委員長を拜命して

松樹植樹委員会委員長 田所 仁



河井継之助邸の庭園に松樹が二本、植栽された。松樹はかつて、河井邸のシンボルであり、蒼龍窟の号名の由来となっていたものの、大風などで失なわれていた。

このたび、私の念願がかなって、継之助終焉の地、只見から移植された。それは関係者各位の協力によって実現したものであるが、あらためて御礼を申しあげるとともに、二本の松樹に蒼龍窟の魂が宿ることを念ずる次第である。

### 松樹植樹セレモニー

平成二十一年五月二十日、河井継之助記念館庭園にて松樹植樹セレモニーが開催されました。

記念植樹では、森長岡市長、目黒只見町長、田所松樹植樹委員長らが只見の土を根元にかぶせ、二本の松樹の復活を祝いました。

情報求む! ご存じの方はいらっしゃいませんか?

## “長岡名物 河井せんべい” 発見!

カステラ式「湿気が増す程風味を増す」

長岡市内のとある骨董品店で「河井せんべい」の箱(2種類)が発見されました。

- ①長岡市新町:花垣商店謹製
  - ②長岡市新町:本舗花月堂製
- カステラ式「湿気が増す程風味を増す」と書いてあります。

商品にまつわる情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局までご一報ください。「食べたことがある」「由緒を知っている」「広告を持っている」等々どんなことでも構いません!



本舗花月堂製  
花垣商店謹製



本舗花月堂製 側面

# 河井継之助はどういう人物？

## その④ 幼少時代

連載

妹の牧野安子や三間正弘の述べ懐によると、継之助は「幼少のころから腕白者で強情の人だった」と伝えられている。だから、どちらかというと孤高で眼上(年上)の人にもかわいがられず、朋輩とはよく喧嘩をしていたという。だから、小山良運(藩医)を除けば、だいたい目下(年下)の有能有才の子どもと交遊を結んでいる。

たとえば、河井継之助は藩儒山田愛之助に私淑し、川島億次郎(のちの三島億二郎)らと伊丹政由を首領とする青少年グループの桶宗の構成員だったが、特段、頭角をあらわすほどではなく、むしろ別格に立場を決めこんで客観視するふうがあったという。山田愛之助は号を到处といい、朱子学者だったが、江戸遊学で芝蘭堂に学び、オランダ語が得意だった。そのオランダ語の勉強に長岡藩の子弟が山田の屋敷に通った。蘭医

をめざす者は勿論だが、新奇好きの青少年が山田のもとに通って、オランダ語を修得している。小山良運、鶴殿団次郎、川島億次郎、小林虎三郎らと一緒に山田からオランダ語を教えてもらっただけで、彼らほど得意科目とならなかったから素直に学ぶ姿勢を持たなかったのだろう。ただ、のちに長崎にいった際、山田愛之助のオランダ語は役に立つらしい。横浜の洋館に興味を示すのも、山田愛之助のところでオランダ語の学習をしたからであろう。山田愛之助は長岡藩に洋学を導入した藩士として、城下では著名であった。蘭学は小林英庵などの医学者が以前から導入していたが、山田は洋学的思考を青年藩士たちに教えた。



山田到处書「八幡太郎親楼図」(長岡市立中央図書館蔵)



鶴殿団次郎著「萬國奇観」(長岡市立中央図書館蔵)

の長岡をリードする役割を担った。特に川島億次郎、小林虎三郎、鶴殿団次郎とは生涯のライバルであり友であった。いずれも開明的で先進的な思考は、山田愛之助のところで涵養されたものだろう。

当時は身分社会だから、上士階級の子弟とは交情が余りなかったが、萩原要人の屋敷で河井、川島、花輪などが月見の宴をしたことが伝わっている。その際、江戸遊学からたまたま帰郷していた鶴殿団次郎が「月までの距離を知っているか」と提案したことがあった。伝聞だから、いつのことだか不明だが、一同、その遠さに驚いたという。

河井継之助が王陽明の「山近く、月遠ければ、月の小なるを覚ゆ、すなわち道う、此の山、月よりも大なりと、もし、人、眼大なるこ

とを、天の如き有れば、還た見る、山小にして、月更に濶なるを」をよく朗詠したというから「月見の宴」の感化があったかもしれない。

『河井継之助傳』では牧野安子が「仲の良かった方は三間市之進(のちの三間正弘)、花輪馨之進(のちの求馬、また秋田外記と改名)、小山良運さんなど」といつている。

三間正弘は旧名を三間市之進と称し、長岡藩の三進の一人とつたわれた秀才。奉行格の三間安右衛門の家に生まれ、江戸遊学を果し東禅寺事件に加わったのではないかと嫌疑をうけた。河井継之助より十歳年下であり、上士の出身だが、河井の同志となった。戊辰戦争では軍事掛となり、主に軍事面の参謀役となった。

花輪馨之進は求馬と称し、のちに秋田外記と改名し、戦後長岡藩の少参事をつとめた。秋田の長女梅は津田梅子らと外国留学生に選ばれたが辞退した。梅は京都新聞を創設した白石古京の母である。花輪は継之助より八歳年下だが、若いころから親交は伝説的でありさえする。花輪が子を無くした際、その悔み文が残っているが、上士階級の花輪に情をかけた継之助の偉大さがわかる。

小山良運は同年生れの藩医。大

坂の適々齋塾の出身で、医家でありながら軍事や経済の知識が豊富であった。良運とは若いころから方々に出かけて、一緒に遊んだ仲だと牧野安子が述懐している。改革でも事あるごとに、小山良運に相談し、決断したといわれている。

他に小金井儀兵衛、渋木成三郎、柳野嘉兵衛、森一馬、森源三らがあった。

武士としての教養をたしなむ相当の年齢というから、元服前後に継之助は学問や武芸の師範のもとに通うことになった。十五歳前後だと思いが、継之助は嫌々ながら通つたらしい。そんなことができるのも河井家の裕福ぶりがかがえるものである。

家中には屋敷内に家塾を開くものがいた。藩校の教授や武芸場の師範が執務以外の時間に特別に教えてくれたのである。そんな教授たちのもとに継之助は教えを乞いに通っている。文学は木村誠一郎。文学といっても儒学をいう。木村は禄高百石の朱子学者。号を鈍叟といい、藩儒の高野松陰、山田愛之助(到处)とともに長岡藩最初の藩命による遊学者の一人である。継之助は木村から程朱の説を聞くうちに疑問に思ったのか、それから批判がはじまる。(稲川)

# 「塵壺」を読む ④

連載

西国遊歴の最初の宿は神奈川の玉川屋だった。玉川屋は茶屋。最初から旅籠ではなく、いきなり茶屋に泊るのも継之助らしくて面白い。

安政六年の六月七日は新暦でいうと七月五日。夏の日差しが継之助一行にふりそそいだ。

開国間もない江戸湾や横浜には異国船がいた。横浜へは神奈川から船に乗って渡り、アメリカ人をはじめと見ている。

「銀銭の値も定まらずゆえ」交易もうまくいっていないという継之助の観察は鋭い。交易所で本格的な取引がはじまったのは、六月始めからであるから、代金決済もままならなかったであろう。特に日本の商取引は銀銭が中心で、金貨の通用には商人も面喰った。日本はいままで金も銀も同等にあつかわれており、外国の銀価はきわめて低かったため、銀を持ち込んでくるだけで、金の大儲けができた。すべて、外国には有利な商取引が開始された。

この交易事情については、旅の課題であったものか「塵壺」のなかにたびたびでてくる。

十人ほどの外国人にも出会っている。特に女性・子ども・使用



「龍馬と同志たち」(霊山歴史館蔵)  
慶応3年頃、海援隊の前身・龍山中社の写真。左から長岡謙吉、清淵広之丞、坂本龍馬、山本復輔(洪堂)、菅野覚兵衛(千屋與之助)、白峰駿馬(鶴殿団次郎の美弟)といわれている。

人の黒人が交っていたことに驚いている。なかでも女性の「目鼻立ち美人なり」と観察している。

神奈川宿であるが、そこは横浜とは違い、昔から旅籠が多かった。本陣を司さどっているのが鈴木源太左衛門。旅籠屋で大きなのは大米屋佐七、名古屋新八、米屋吉兵衛、大黒屋齋三郎、羽根屋佐兵衛のほか小さな旅籠が三十軒ばかりと旅籠街の左右に茶屋それぞれ十四、五軒が並んでいた。

継之助は芝生村境のはずれの海辺側の玉川屋清兵衛に宿をとった。玉川屋まで、花輪、三間、鶴殿と一緒に泊っている。おそらく、玉川屋に泊ったのは、主の名が清兵衛であったことにこだわったに違いない。清兵衛は河井家

出入りの商人か、使用人の名であったから選んだのではないか。

この旅の初日、富士山の頂が見えた。

翌日は三人と分れ、一人旅が始まった。金沢八景の能見堂あたりでは、暴風雨にあつていて。六月九日は晴れて鎌倉の旧跡を見学。早速、持参の望遠鏡で風景を眺めた。

十日、小田原では宿に帰り、久し振りに結髪している。このとき、のちの藩政改革の際、参考になるヒントを知った。

それは髪結株の仕組みである。

『河井継之助傳』に妹の安子が「兄は月代をそる際のコツを教えている談話が載っているが、髪結の制度には余程、興味を持っていた。火消しや治安なども司さどる髪結に、特権を与えたのは何故か。不思議に思ったのが、この小田原での髪結の制度を目の当たりにしたことであった。おそらく、この体験がのちの長岡藩の髪結株の改革につながっていく。

十一日、天城の山をみて驚いた。山が青々としているのである。

たまたま同行した旅人がいう。「あれなるは吾が国の天城の山なり。かの山より公儀(幕府)に納むるところの炭十萬俵数書上げ百六十八、そのほか各持林よ

り炭を江戸へ出し、伊豆は炭七分と云う所なり。年中、炭を焚居りと云う」

幕府に納める炭は、伊豆天城山からのものが十萬俵もある。江戸市に出回る炭の七割が伊豆からのものである。十萬俵も炭を納入できるのは、山は炭焼きをする人たちの持ちものであるからだ。森林を大切に、計画的に炭焼きをしているから、山はいつまでもハゲ山にならないのだ。

持山だと森がなくなるといいう。計画的な植林が行われて、炭も毎年同じ量を供給できる。この仕組みを継之助は旅人から聴取している。

長岡藩領の山々は、いつも樹木がたりず炭焼きには困っていたし、よく村境で村民らの抗争事件が勃発することを、継之助は知っていたから感心したものであろう。

長岡城下から、東を望むと東山連峰が美しい。とりわけ雪形を描く春の夕陽をあびるころ眺めると最高だ。継之助も幼少のころから眺めつくらした。特にひとときわ高い鋸山に関心をしめしていたことが、旅日記「塵壺」にてで

くる。すなわち安政六年六月十二日のくだりに「鋸山之木、すでに尽んとす」とあり、城下で使う炭や材木が乱獲で、樹木がなくなるというのである。

長岡藩は東山連峰の一部を、侍たちのための入会林としていた。薪炭をそこから獲り、燃料に供していたのである。

富士山を眺め、その麓に広がる広大な樹林を見て、故郷の鋸山を思ったのである。鋸山は標高七百メートル。東山連峰で一番高い山である。友人の鶴殿団次郎の実弟が白峰駿馬と改名したように、雪をいただく鋸山は秀峰であった。

鋸山は長岡城下から眺められる東山連峰の最高峰。幼いころ鍛錬のためによく登った。近くには藩士の共有林があり、薪炭の供給源だった。

そもそも天城の炭が、江戸市場に大量に入るようになったのは、天明年間ころだといわれている。江戸には八王子地方が薪炭を供給していたが、江戸の人口増加のために需要が追いつかなくなった。そこへ野州炭が入り、伊豆の天城の木炭が入ってきたという。天保ころになると天城の木炭が、江戸市中に大きく市場を占めたのは、炭焼き者の持山(所有)制度であったのである。その天城の薪炭の現場を継之助は、実見できた。こ

れらの天城の炭の生産と市場拡大の対策について、継之助は大いに参考になるころがあった。

「におい、温度、空気、時の流れ…物語の情景を聞き手に感じてもらえるような表現朗読を追及している」畠山さんとのコラボレーションで聴いた吉原さんの朗読—それはまるで河井継之助がすぐそこにいて、彼の「生」が感じられた。今回は吉原さんと表現朗読についてのエピソードや、ずっと前からの「想い人」についてなど、たっぷりとお話をうかがった。



吉原玲子 (よしはら れいこ) プロフィール

長岡市に生まれ、現在は片貝花火で有名な小千谷市に在住。約10年前に表現朗読と出会い、新潟・朗読「声」所属。5年前に仲間と朗読「泉」を長岡に立ち上げた。ギタリスト畠山徳雄氏(会報3号で特集)と、朗読とギターを通して河井継之助の生涯を広く紹介している。長岡観光ボランティアガイドの会副会長。朗読で培った独自の手法と長岡人らしいおもてなしの心でふるさとの歴史を紹介している。

## 物語の登場人物がすぐそこに—

吉原玲子さん (六十七歳)

長岡弁と『峠』  
「藤沢周平の『蝉しぐれ』—なつかしいな、初めて朗読した作品は時代物です。鶴岡まで行って、あちこち歩いて回って、土地の香りを感ずるところからはじめたのよ」すぐいこだわりようである。「テレビも時代劇を好んで見えます。あらすじで楽しむだけでなく、せりふの言い回しや問の取り方、女性であったら老若それぞれの着物姿や

品がある。「司馬さんの『峠』、これは難しかった!長岡生まれだけれど育ちは柏崎だから。長岡弁が自然と出てこなくてね。年配の方に教えていただきました」  
●想い人は…  
「歴史が好き、人が好き」という吉原さんは長岡の名所旧跡を案内するボランティアとして長年活動している。「河井継之助記念館も山本五十六記念館もなかった頃、私たちの案内のメインは御山でした」桜の名所でもある悠久山。市民には「おやま」と言われ親しまれている。「老人会の方を御山にご案内したとき、池のほとりです。『長岡市歌』を歌った。みなさんなつかしんで、声高らかに二回も歌った。それが心に残って、声を出すのもいいなって思った。それ以来、ご案内する中で歌を歌ったり、朗読調にやってみたりしています。『こうあるべき』っていうものはないから『こうあってもいいんじゃないかな』と思いがらご案内しています」  
歴史を紹介するボランティアをしているということは、もともと歴史好きなのですか?という問いかけに「いええ!」という吉原さん。「小千谷に嫁いで長岡の歴史に詳しい方と知り合った。生まれ育った長岡について自分の無知さをどうにかしたくてボランティアガイド講

習会に参加したのがきっかけです」勉強会で古刹慈眼寺を訪ねた。「河井継之助という名前くらいは知っていたけれど、人間像までは知らなかった。『峠』を読んでゾクコンになりました」吉原さんはボツリと言った。「先見の眼があった河井さんにとつて、あの談判は…無念だつたでしょう、本当に」慶応四年閏五月二日午後二時—小千谷寺町慈眼寺本堂西側和室において、麻袴に身を包んだ河井継之助は心を尽して和平を交渉した。

## 遠方からの客人

●インタビュー④もっと身近に感じたかった



2009.8月23日(日)

小河 宗太郎さん (31歳)

どちらから?—東京です。河井継之助記念館と山本五十六記念館を見に長岡へ来ました。当館を知ったきっかけは?—数年前、『峠』を読んで以来、気になる人物となり、何度も読み返しました。自分は、仕事で外国へ行くことが多く、つい先日までカザフスタンに行っていました。そこで、長岡市出身の人に出会い、継之助の記念館ができたことを知りました。

「談判がうまくいっていたら…河井さんが生きていたら…どんな時代になっていたのかな」吉原さんは遠くを見つめた。「河井さんのような方に日本を引っ張ってほしいななって思います。大好きな人、大好きな男性像です」いかなるものにも迎合せず、信念を貫き、新時代を夢見た河井継之助。現代に生きる女性にとつては、河井継之助の生き方こそが魅力的なのかもしれない。  
(インタビュー／嘉瀬・写真／神保)

当館では、どういう物が見たかったのですか?  
—司馬さんの本で自分なりのイメージがあったのですが、とにかく継之助が生れた所、使った物、書いた物などを自分の目で見てもっと身近に感じたかったです。実際に見て感激しました。  
何が印象に残りましたか?  
—両親に宛てた手紙や歎願書です。特に歎願書では、日和見的になりがちな風潮を批判し、世界に眼を向けている継之助の考え方に驚きました。  
最後に一言どうぞ  
継之助は西国を旅したり世界に眼を向けたりしていても、長岡のために何をすべきかを常に考えているところがすごいと思うし、自分も仕事をやる中でその心を大切にしたいと思っています。(インタビュー／神保)

# 会員の声

## 「会員の声」大募集!

### ● 継之助に思いを馳せて

去る十月十二日、我々会津の歴史同好の仲間と共に、記念館を訪問させて頂きました。継之助の歴史と「真の心」とを、胸に受けとめて参りました。その中で特に「民が国の本であり、役人は民の雇いである」と記されている、彼の直筆の書には感動させられ、正に現社会に於いてもその様でありたいと、受けとめて参りました。会津から移植された松の木も拝見し、それから小千谷の命運を決した会談場所「慈眼寺」も忘れず見学し、沢山の思い出を胸に抱きながら、帰路に着きました。ありがとうございました。

### ● 入会に際して

私事で恐縮ですが、記念館のオープン初日に館内を見学して以降、足が遠のいておりました。今年に入り、二月十二日の司馬遼太郎氏の「菜の花恋」に、偶然にも、奥様のみどりさんの『司馬さんは夢の中』一〜三巻を読み終え、司馬氏を身近に感じて手紙を差し上げる機会がありました。奥様から速達にて、心温まるお手紙をいただき、今年の「菜の花恋」の様子に加え、文末に「司馬遼太郎は、河井継之助を愛していました」と結ばれていました。その後、四月の友の会総会時に、山本清氏のご講演にて、『峠』文学碑の建立までの道のり、山本氏が感じられた優しくて、おおらかな司馬氏との触れ合いを興味深く

聞かせていただきました。更に、稲川館長さんの『河井継之助』を読ませていただき、継之助の壮志と無念さ、時代の流れを学び、遅ればせながら、友の会の一員として、少しでも河井継之助を理解したいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。

### ● 志

わが家の祖先も士族であった。昭和二十、八月十五日から六十四年になる。戦争から帰国して小作の家へたどり着いた。母の父もなく、幼少の頃は元気で励まれて家へ入り黙する。今の世は河井継之助の識語を『民者國之本吏者民之雇。継。』とあった。今の公務員は名ばかりで雇の心がない。政治家も一般も形ばかりで一意見の気合いがない。国の赤字が約一千億円?以上やら力を出して払う日本の大政治家は一人も居ない人物である。

### ● 河井継之助と山本五十六

戊辰戦争で最も頂点となるのは小千谷の慈眼寺における西軍の軍監岩村精一郎と長岡藩家老河井継之助の会談である。河井継之助はスイスの万国公法にならぬ武装中立を唱え戦争回避につとめるが聞き入れられず開戦となる。山本五十六はこの会談を重視して河井継之助を尊敬していた。後年山本五十六はロンドン軍縮会議に臨み海軍の艦隊派に対して条約派を主張していたのである。

— 三條和男(東京都武蔵村山市)

## 待望の河井継之助像「風雲蒼龍窟」が生誕の地に誕生!

— 勇気と希望・生きる力・くじけない心 —

十月四日、館展示室にはほぼ等身大の河井継之助像が建立され、除幕式が行われました。

内山弘銅像建立委員長(当会副会長)は、これまでのいきさつや像に込めた思いを述べ、また長岡市長は「長岡には花火や米百俵もあるが、やっぱり河井継之助。体制に迎合せず、筋を通した河井さん。そういう気概を感じられる像」と感激されました。

銅像建立を記念して、オリジナルポストカード(5枚組・パッケージ付き・500円)の販売を始

めました。銅像はもちろん、5月に植樹された双松、ガトリング砲などの絵柄が5種。継之助の箴言や像の詳細解説まで、河井継之助の生き方をたっぷり味わえる一品です。ぜひこの機会にお求めください。



河井継之助像



建立除幕式

## おしらせばん

河井継之助記念館 絵はがき

### 終焉の地から【一部展示替えのお知らせ】

只見町の河井継之助記念館は現在冬期休館中です。その間、長岡の記念館では終焉の地ゆかりの品3点を一般公開します。傷の治療のために使用された膏薬ややかん、作家司馬太郎が継之助の没地を訪れて揮毫した軸を公開します。 遼

▶ 新年1月5日〜公開予定

#### 新講座

● 司馬遼太郎著『峠』を読む会  
毎月第3月曜日 午後6時30分〜8時

司馬さんが『峠』に込めた思いや現代に向けたメッセージについて等、自由に意見交換します。

#### 好評開講中

● 河井継之助旅日記『塵壺』を読み解く会  
毎週土曜日 午後1時〜3時

● 今泉鐸次郎著『河井継之助傳』を読む会  
第2・4月曜日 午後1時〜3時

● 楽しい詩吟教室  
第2・4土曜日 午後3時〜4時30分

各講座とも事前申込が必要です。休講になることもありますので詳細は記念館へお問い合わせください。

●交流研修旅行

九月二十四日、第三回友の会交流研修旅行『会津歴史探訪』が催されました。参加者七十六名。まず、飯盛山での白虎隊慰霊祭の式典に参加し、下田会長、田中副会長、田所理事が御霊に玉串を奉納しました。そこで披露された剣舞を見た会員の多くは感動し、胸を熱くしている様子でした。

次に向ったのは会津武家屋敷。おいしい郷土料理をいただき、思い思いに自由散策。その後、建福寺で戊辰戦争当時の松平公の話を伺い、山中の河井継之助の墓に合掌しました。日が西に傾きかけた頃、いよいよ旅の最終目的地で

ある長岡藩士殉節の地・飯寺へと向いました。ここでは長岡藩士殉節顕彰会の方々が、毎年長岡藩士を厚く弔ってくださっています。その思いに感謝し墓前に手を合わせ、本光寺本堂で貴重なお話を伺いました。番外編として直江兼続ゆかりの神指城跡を訪れ、会津を後にしました。

「充実した旅行でしたね」という参加者の声に、今なお息づいている会津藩と長岡藩の深い繋がりを再確認しました。有意義な一日を過ごしたのは、会長を始めとする役員の方々、会員の皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。(伊佐)



本光寺にて



白虎隊慰霊祭 剣舞

建福寺 河井継之助の墓前

新入会員ご紹介

(平成21年11月1日現在)

青木ウタ子	新潟県長岡市	塩足 京子	千葉県千葉市	成川 憲男	神奈川県横浜
粟飯島美津久	神奈川県小田原市	清水 正一	新潟県長岡市	南波 乾次	新潟県長岡市
安司 弘子	福島県西白河郡	清水 フミ	新潟県長岡市	南波 光子	新潟県長岡市
池田 隆	新潟県長岡市	仁保 鉄栄	新潟県長岡市	西片 實	新潟県長岡市
池田 敏雄	新潟県長岡市	鈴木 勝健	福島県津若松市	西山 純子	埼玉県さいたま市
伊藤 紀男	新潟県長岡市	鈴木 隆三	新潟県新潟市	島山 徳雄	新潟県長岡市
伊藤代喜子	新潟県長岡市	須藤美保子	新潟県長岡市	八鳥 成人	新潟県長岡市
猪俣 仁	新潟県長岡市	諏方 恒一	新潟県長岡市	平井 秀行	新潟県長岡市
岩松 卓治	兵庫県姫路市	関山 廣	新潟県長岡市	平澤かよ子	新潟県長岡市
上村 典	新潟県長岡市	園山 浩	神奈川県伊勢原市	堀井 健	北海道函館市
大島 早苗	新潟県長岡市	高坂 守	新潟県長岡市	堀之内明広	長野県上田市
岡 博重	東京都練馬区	高橋 一馬	新潟県十日町市	本光寺	福島県津若松市
荻須あつ子	愛知県名古屋	高松 平	福島県河沼郡	馬庭 憲枝	東京都三鷹市
奥島登志子	東京都中野区	竹内 光枝	新潟県長岡市	溝口 健治	新潟県長岡市
加藤 耕一	新潟県長岡市	武田 孝夫	新潟県長岡市	村上 洋一	福岡県福岡市
加藤 淳	岐阜県岐阜市	田中 啓介	兵庫県姫路市	八木継之助	千葉県松戸市
カリングラス	東京都港区	棚橋 和明	東京都目黒区	山田 哲也	新潟県長岡市
河井 恭一	新潟県新潟市	田村 昭	新潟県長岡市	山中 五郎	福島県大沼郡
小島 孝之	新潟県長岡市	永井 洋子	新潟県長岡市	山中 久子	福島県大沼郡
小林 大作	新潟県長岡市	長尾美智子	新潟県長岡市	山本 法夫	静岡県下田市
近藤 滋子	新潟県長岡市	中静喜美子	新潟県長岡市	山脇 実	愛知県豊川市
佐藤富美子	新潟県長岡市	中堀 勝弘	群馬県前橋市	以上67名(アイウエオ順・敬称略)	
佐野 耕栄	新潟市江南区	中山 紀子	新潟県新潟市		

河井継之助記念館 友の会について

会員募集中

会員の交流や情報交換を通して継之助について親しみ、学び、記念館を応援する会です。

●会員数／正会員：455名／協賛会員：70名(11/1現在)

●特典／①友の会会報「峠」配付  
②会員との交流 ③催事案内・参加 ④研修旅行への案内・参加

●入会手続き  
①申込書に会費を添えて、事務局へ持参。  
②申込書を事務局へ送り(郵送、FAX)、会費は銀行振込または郵便振込で納入。(手数料は本人負担となります)

●年会費 ※会計年度は3月31日まで  
①正会員/(ア)小・中学生:500円 (イ)高校生以上:2千円  
②協賛会員／一口5千円(法人の他、個人でも可)

●口座について  
・加入者名／河井継之助記念館友の会  
・口座番号／郵便局 00560—9—96432  
長岡信用金庫関東町支店 普1032829  
北越銀行本店 普1764663  
大光銀行本店 普3011256  
第四銀行長岡営業部 普1560562

●友の会事務局／河井継之助記念館

友の会ホームページアドレス <http://tsuginosuke.net/>

アンケート

総会でご協力頂きましたアンケート結果です。上位3位は次の通りです。

- 河井継之助との出会いのきっかけ
  - ① 本を読んで
  - ② 話を聞いて
  - ③ 只見町を訪れて
- あなたはどの回答もありました。
  - ① あなたにとって河井継之助とは
  - ② 郷土の誇り
  - ③ 心のささえ
  - ④ 生き方の目標

他には父そのもの、総理になって欲しい人などもありました。その他にドラマ化で演じるとしたら誰？の質問では、渡辺謙さん、高橋英樹さんが多く、佐藤浩市・草薙剛さんの名前も…ドラマ化されると嬉しいですね。アンケートを通して河井継之助に対する皆様の色々な思いが伝わってきました。ご協力有難うございました。

編集後記

●「この冬の雪はなじらうか？」  
近年、暖冬が多いとはいえ、雪国長岡ではこの季節になるとこんな言葉が飛び交います。約百五十年前、積雪もあつたろうに江戸へ向った河井さん。その十二月二十七日、お陰様で開館三周年を迎えます。この会報が、より一層会員の皆様と記念館をつなぐ架け橋となるよう頑張ります。(神保)

編集人・稲川明雄 嘉瀬宏美 榊澤幸子  
構成・月刊マイスキップ編集部  
印刷・高速印刷株式会社